

初代会長挨拶（巖善平）

先日の中国経済経営学会第1回理事会(2014年4月27日, 東京大学)にて本学会の初代会長に選出されました。中国経済学会の中兼和津次会長が中国経営管理学会との統合を提案した2010年6月(名古屋大学)から、両学会の実質的統合が完了した2014年5月までは、ちょうど4年間かかりました。中兼先生の話しを借りていいますと、両学会の統合は、同じ場所で大会を開き合同懇親会を催す「見合い」(立正大学, 2012年)から、共同シンポジウムを開催する「結納」(京都大学, 2013年)を経て、ようやく「結婚」に辿りついた、という漸進的なプロセスで進められたものであり、それだけに、この統合はかなり円満なものと思われまます。

両学会の統合に向けて、会則、理事選挙規定、学会誌等を巡って、議論を重ねてこられた両学会の担当者、特に荒山裕行先生(名古屋大学)、大原盛樹先生(龍谷大学)、加藤弘之先生(神戸大学)、木崎翠先生(横浜国立大学)、丸川知雄先生(東京大学)、李春利先生(愛知大学)は多大な労力を費やしました。この場を借りて、皆さんに衷心より感謝の意を表します。

学会統合はいうまでもなく新しいスタートであって終わりではありません。[1 + 1 > 2]でなければ統合の意味が問われかねません。当面、会員数の増加によるスケール・メリットを生かし、学術活動の活性化、会員サービスの強化をより一層図っていきたいと考えます。具体的には以下の諸点が挙げられるでしょう。

第1に、従来両学会が主催した全国大会や学術研究会、情勢分析研究会、国際交流セミナーなどを組織し、高レベルの学術活動を継続します。海外の中国経済研究者を招聘し、英語、中国語による研究報告・講演も積極的に取り入れます。また、中国で共同国際シンポジウムを開催し、経済関係の学会に参加することも視野に入れるべきでしょう。

第2に、学会誌の定期的刊行および学会誌の質的保証に力を入れたい。大会等における会員報告から投稿者を発掘し、会員による科研プロジェクトの研究成果を特集で取り上げることは有効な方法でしょう。

第3に、学会ホームページを活用し、会員間の交流ならびに会員による研究成果の発信を強化したい。『中国経営管理研究』のように、『中国経済研究』掲載論文等の電子版による公開をできるだけ早く実現します。同時に、J-STAGEへの掲載も早急に検討し実行します。

第4に、学会事務体制のルーチン化を進めます。学会誌の定期購読など一部の事務作業を業者に委託し学会運営の持続可能性を高めます。

また、両学会の統合に当たって、両学会の歩みを何らかの形で記録しておく必要があると考えます。例えば、学会の設立趣意書や会長挨拶、大会・研究会の開催履歴、初代会長の寄稿などを会誌の小特集として収録します。

統合後の会員数は500人くらいとなっています(旧経済学会390名、経営管理学会140名。一部重複あり)。一時、入会者の過半は入会数年後に退会しましたが、近年の会員数はきわめて安定しています。本学会を愛着し続けている会員の皆さんに学会の魅力をいかに感じてもらえるかは今後の大きな課題です。

学会は会員の会員による会員のための学術組織であり、会員はみんな主役です。学会の発展のために、微力ながら皆さんと一緒に努力していきたいと思います。

(2014年5月記)